萬國幼稚園協會案

# 幼稚園要目（續き）

## 第八章　音　樂

子供達は子守歌や睡り歌を聞いて其の旋律やリズムを反應するが、言葉や音樂の性質上、一定の形式を敎へられない前に自然に歌ふことをはじめる。小さい子が仕事や遊びに夢中になつてゐる時には自分で小聲に歌てゐる。キープリンは Muhammd Din の物語や Plain tales from the Hills に於て、小さい黑ん坊の子供が石やガラスの破片や萎れた花で造た不思議な宮殿の事を物語て居る。或日 Muhammiet Din が打たれて凹凸になつてゐるボールを見附けて其れが他の物より一層不思議な組立てが出來さうであつたので、「急に愉快な唄をうたひ出した」

### 一般目的

歌はふといふ望みを起させること。

樂器、肉聲共に、音樂といふものに對する感じを呼びさますこと。

音樂的經驗から社會的感じを創造すること。

主題を一層活々と興味あるものとする事。

### 特質目的

輕快な調子と言葉の流暢な歌ひ方を定めること。

子供のリズムに對する感覺を發展せしむる事。

子供をして他の施律を再現し、元の旋律を考へて表す樣に導くこと。

### 主題

要目の主題は歌の種類を次の如くに提示する。

歌の種類

1　家族的の歌

2　挨拶の歌
3　讃　歌
4　式　歌
5　天候の歌
6　愛國の歌
7　仕事の歌
8　季節の歌

## 一般目的に關する方法

歌はふさする望を起させる事。

いづれの群團的練習に於ても、教師が正しい感じを導くならば子供達は熱心にこれに參加する。單音を取扱ふ時に子供に自分の無力を感じさせない樣にしなければならない。單音は歌ふといふ事だけで學び得る。

群團で歌ふ時の熱心さが子供達をあまり大聲で歌ふ樣にする傾向がある。これらは子供達の聲の爲によくないから注意しなければならない。他兒の聲を壓倒しようとする一人々々の子供達は、歌ひながら他兒の聲やピアノの音をきく樣に教へられるべきである。

或幼稚園で採用されてゐる樣な大層調子のめちやくなる成て居ないのと、唱歌の間でさへも始終子供達が靜かに壓さへつけられてゐる他の幼稚園又は小學校の教室に於ける一本調子な歌ひ方との間に於て良き中間を求むべきである。

器樂と聲樂とを通じて音樂的感じを呼び起すこと。——歌をきくこと。

子供達はお話を聞く事に依て文學上の感賞力を增進し良き繪を見る事に依て美術の感賞力を增進する樣に歌をうたふのを聞く事に依て音樂の感賞力を增進し得る。蓄音機は肉聲には代れない、何處の幼稚園の教師も子供達に對してお話をして聞かせる時に歌を歌つて聞かせる事も出來る筈である。歌の選擇は一年の一定の時期には群の興味を根とする。嬰兒に對する母親の注意といふ事は民謠やブラームスの子守うたを歌ふ樣にする。子供達に教へ樂と思ふ美しい精巧な多くの歌は歌て聞かせるのがよい、之等の歌は Neidlinger book の中の歌の樣に空想に富んで居るので宜し

更に美的な歌の例を擧げれば

Songs of the child world の中の The bird's Nest。

Nature songs for children の中の It is spring。

若し教師が歌て聞かせる事が出來ない時にはレコードを使ふのがよい――子供達にとつて聲樂のレコードを聞くといふ事は器樂のレコードを聞くと同樣の價質があるかどうかは疑しい事ではあるが――。丁度お話を聞く時の樣に子供達は歌ひ手の顏を見る事が必要である。

器樂を聞くこと。

我々は幼稚園でピアノを用つて屢々失敗した。我々は幼稚園に於て餘りたえずピアノを使用したので、どんな賢い方法に依てども子供達がそれを聞く能力を鈍らした程である。例へば毎日の會集の終りの時にするおきまりの「靜さ」の如き。

大人行進の樣な活動に Handa の Largo の樣な偉大な緩奏曲を使用せるのは亦樂器の濫用である、が其れとは反對に行進の急奏曲を奏したり其他劣等劇場の音樂などを使用するのもこれと同樣である。我々は音樂の原形をくずして、幼稚園に都合の宜い樣に、其音樂本來の目的をはずれて使用を試みてはならぬ。Largo の如き音樂の高尙な調子を破壞し之を不具にして幼稚園の種々な活動のリズムとする樣な事があつてはならぬ。一方劣等劇場の音樂は演奏の技倆如何に係らず所詮俗なものといふにすぎないから、斯樣な空氣をして幼稚園を侵さしめるべきでない。

Schumann の Wild rider and Soldi:r's marcha や Schubert の Marchemilitaire や Gounod の Funeral marche of a maruonetta は幼稚園で用ふるに適した簡單なそして模範的な音樂の例である。幼稚園に於ける凡ての樂器の性質は活動に表して子供達が反應しつゝあるにしても、無意識的な効果を有し、其選擇が賢ければ音樂觀賞力の助となる。音樂の或特殊な形は往々にして要目の考と一致する。かのクリスマスに演奏され歌はれる Stille nacht の如き又リシントン誕生祭に演奏される他民族の愛國の曲の如き又春演奏されるメンデルソーンの Spring Song グリーグの To pring の如き。

學年の終りに子供達は器樂と歌とを簡單な方法で次の樣に分類する。

眠り歌。ダンスの音樂。お寺の或はオルガンの音樂。軍隊音樂。

かゝる特色を持つ新しい音樂を子供に聞かせると子供達はそれがどの部に屬すかを語る事が出來る。

社會的感情を創造する事。

合唱に於ての社會的要素は音樂の主要價質の一である。近來團體合唱が國内到る處發達したのは此の要素が根據に成てゐるのである。幼稚園の教師が子供と一處に歌ひ一處に奏する理由は、團體が共通の經驗に與かるからである、が然し多くの音樂監督は、教師は決して子供と一處に歌てはいけないと云ふ、かような命令の理由は、子供が教師の聲にあまりたより過ぎ又教師の聲が子供の聲を壓倒するといふのにある。且つ又若し教師がたえず子供と歌はふとすると子供の一人々々の聲をきく事が出來ず從て子供各自の旋律を正しく歌ひ得る能力の程度を知る事が出來ない。教師は子供の聲に耳を傾くべしとする場合其處に若干の教訓が存する事は眞實である。と同時に、我々は技術が進歩しつゝある時と、挨拶の歌又は愛國の歌に於けるが如く社會的經驗を表白するに音樂が用ひられつゝある時とを區別すべきである。斯くして教師は群と同一視される。

主題をもつと明かに興味深くする事。

主題の或狀態は音に依て最もよく表現される、繪畫は子供に對し直接明確に訴へるが然し感情的と云ふより寧ろ智的である方が多い、敬虔の感じを起さうとするには Still Nacht を彈いて、或は歌て聞かせれば、クリスマスの繪を子供達に見せるのに適當な氣分を作る事が出來る。

或觀念は他のどの方法よりも巧みに音に依て表現される、お寺の鐘や鍛冶屋の槌の音の如き、斯る音樂の特性は音樂感賞に大に密接なる關係がある。

## 特殊目的に關する方法

快活な樂しい音調を定める事。

1　よい音調を作る樣にする事。それが爲に子供達が、普通音階のFより低くより高く歌はないようにする。團體合唱の時、子供達が大きな聲を出さないようにする、子供が自分の聲がどんなかゞ解るように一人々々で歌ふ事を

奬勵する。模範として教師の聲を聞き、正しく調子の合た兒童の歌を聞く。

2　歌の文句を流暢につなげて歌う樣にすること。息をつぐ事は調子の上に重要な事である、そして滑らかに歌ふ習慣が、正確な音調と同樣に最初から初められねばならぬ Jockt gill や Here's a Ball for Baby の如き自然にリズミックなものは滑らかな歌がうたへる迄は教へてはならない。我々は短い歌を教へ、子供に教へ子供に教師のを模倣させて一息で Our Goodmorning We will say の樣な可成長い句を歌う樣に奬勵する子供達は人が全文を滑らかに、きれ〴〵で無く、話す樣に、句を云ふ事に依て此の目的を達す樣に導くことが出來る。初めは凡ての歌は極めて靜かに歌はるべきである。我々は子供達に對して言語、リズム、旋律の熟達をあまり急に望みすぎる。入學の初めの數週間にこれがなされると或る子供達は皆が歌てしまつたあとでなほ、歌をのろ〳〵と歌ふ。Mother Goose の詩や Finger Plays は學年の初めには歌はずに話して聞かせる方がよい、若し話が柔かな音聲で豐富な表情で語らるゝならば歌ふと同樣に子供達には興味あるものである Mother Goose の詩を劇化させのに器樂を伴ふもよい。子供達が活潑なゲームをしてゐる間は歌てはいけない。通常、活動は子供に歌ふのを忘れさせるほど夢中にならせる。子供達が靜かに歩きまわる The farmerfin the Dell や Itiskit Itasket の樣なゲームでは活動が歌をうたふ息の調子の妨害とならぬ、しかし此の際子供の會合の時や通りでゲームをして遊ぶ時の樣な貧弱な音調に退化して行かない樣に注意しなければならない。リズムに依る子供の感覺を增すこと。——

1　器樂に對する身體のリズム的な反應——　マーチ、スキップ、ラニング等の如き——。

音樂は子供の活動に從ふ。

子供は音樂のリズムに反應する。

新しい音樂に對して子供は、之はスキップが出來る走れる等といふ事を認識し正しい活動を以て之に反應する。

子供は音樂の特性に對して適當な方法で反應する。例へば Ladita に於ては、最初の數節の緩やかな調子に次いで大層活潑なリズムが來る、この曲の初めの部分で子供達は自

分から歩いたり、ごん〳〵踏み歩いたり（園の周圍を、又中心に向ひ或は圓週に向て）し、次の部分では踊り跳ねたり、くる〳〵廻たりする。

2　器具や手等でタイムをとる事。

歌のリズムを手拍子でとる事。

四拍子とか三拍子等の異た速度を手拍子する事。

手拍子と同樣に指揮棒でタイムを取ること。

トライアングル、大太鼓、手太鼓等の一隊で一緒にタイムを取ること。

樂器の全部は指揮者從ふこと。

Ladita の曲に應ずる場合の樣に音樂の特性に對して樂器の輕重を區別すること――重い時には大小の太鼓を打ち、輕い時にはトライアングルを打つか、小太鼓を振るかする樣な――。

子供達が所の旋律を述べたり考へたり又他の施律を再現する樣に導くこと。

1　聲の吟味。

學習の最初の數週間に子供達の聲を吟味し、子供達の音調を適當させる能力に從て三つの群に分類すべきである。1、園は單曲を正しく歌ふ事の出來る子供達で組織され。2、園は曲の部分は歌へても高い處の出ない子供達で成立ち。3、園は單音丈しか出せない子供で組織でされる。

2　調子をそろへる事。

曲を歌ふ事の出來ない子供は殆ど多くの場合、身體上の缺陷ではなく曲を作る異た音調を聞き別ける能力が無いのである。歌を正しく歌ふには子供達は單に音の種々な高さを、聞いたり出したりするばかりでなく又リズムや言葉に通じ音調と言葉とが調和するようになければならぬ。

簡單な歌を手はじめとして、それから後に述べる樣に分析に進むのが最も良いのであるが、僅の調子しか出ない子供達に對しては音調の練習が必要である。これは小園で行ふ方がよい、但し時としてほ幼稚園の全兒に對しても興味ある練習である。

歌ひ得る子供の、音調の正確な再現は他の子供が音調を一層明瞭に聞く助けとなる。それは小さい子供の聲といふ同一の媒介から聲が出る故に――。

ピアノや教師の聲も亦模範として用ひてよい、ピアノの音は際立てはつきりしてゐるが教師の聲がその質に於て、子供の出さうとする調子に近いものである。勿論問題が、調子が言葉に結合するのにある時には肉聲が、よりよい模範である。

歌と話とには音調を出す上に多くの暗示がある。

たとへば、次の如き。——

赤ん坊の喇叭が「トウト、トウト、トツト、トー」

此小豚は「ウイー、ウイー、ウイー(音い調子)」と叫ぶ。

三匹の熊は「誰か私のスープを呑んだ」(三音度)と云。

家族の歌は「これはお母さん、これはお父さん」等と音階でいふ。

子供達が曲をはつきりと聞きされる樣に、ピアノの周圍に小團が集て歌ふのはよい事である。

3 單音

多くの個人的練習は單音ですべきである——若し出來るなら他の子供達の居ない室で「赤ん坊の喇叭の」トウー、トウー、の樣に、初は子供をして自分自身の調音を作らしむべきである。それから教師に模倣させる——子供は小さなラッパを強く吹く事が出來るかどうかを考へて——。輕い小さい音調は子供達には通常高い調子と思はれてゐる。

子供を勵まして、模倣に依り一層高い調子を出させる樣にし、或一つの音の高さから變した時には如何に之が微細であつても褒めてやる樣にするがよい。音譜の度の隔りの多い調子を歌ふ事の出來ない子供が、蒸汽ポンプの號笛をきいて其の眞似をした爲に音を上るようにする事を偶然に助けられる事がある。單音を歌ふ子供達が旋律をうたふ子供達より大きな聲で歌はないように教師はよく注意しなければならない。斯樣な子供達に對しては、他の友と一處にうたふ間よく旋律に耳を傾ける樣に助けなければならぬ。

4 歌

學期はじめ二三週間は、ごく僅しか歌は教へてはならぬ、そして其等はごく簡單なものであるべきだ。それ丈で完結してゐる、歌の一くぎりを用ひてもよい、Good-bye to you Good-bye Good-bye (Child Landin song and Phythm の中の)

の如き。

吾々は幼稚園に於て、園唱に力を注ぐ習慣がある、それは練習の社會的性質と、歌の主題が集團に興味があるとの二つの理で。

吾々は此の種の唱歌を學年の始めに課するため悪い習慣がつくのを餘りに氣付かずに居すぎた。我々が集團の中にあつて個々の聲を聞き分ける事に慣れると、或子供達が僅かな音調しか歌へない――他の音調を聞かない爲に――ことを發見し得る。彼等が一人で歌ふ時には元氣なく低い聲である。たえず斯樣にしてピアノ又は教師の聲に逆てうたふと子供達は音の印象が不明になつて來る、そこで始めはごく小さい園唱が必要になる。吾々はこれまで學年の初めに於て十分な一人〳〵の歌ひ方をしなかつた。若し幼稚園に正しい雰圍氣があり、歌はふとする場合いつでもうたへると感ずる樣になつてゐたら、多くの場合自己意識が強くならない方がよい。一人〳〵でうたふ事から自發的な小さな旋律が生ずるのである。吾々は書く事を教へはじめるのに子供の再現を豫想して、自分達の完全な手本を提示しはしない。吾々は子供達が自由に想像力を働かして製作し漸次意識的な結果へ近づく樣にと奬勵するのである。なぜこの方法を歌ふことにも用ひないのかGood mornig to yon の答に I am here といふ樣な句を子供達自身の調子でうたはして見よ。春の歌秋の歌をうたふようにとらはれて、その瞬間にそれらの歌を即座に作て歌た子がある、又他の子供達は記憶してゐた歌をうたつてゐた。創作された歌に常に朗吟調の形式である。或日子供達が爲てゐる仕事と同種の物の歌をうたつて居る時に、一人の男兒が調子を外して Mulberry Bash といふ事を音樂的に云つた、といふのは名が云ひ難いのでリズムから考へ出したのである。子供が自分自身の簡單な曲を聞く事を覺えるのが他人の音樂を聞く基礎になる。此の寧ろ「偶然」な歌ひ方は次の樣な句を小さい曲にする能力を發展させるべきである。

Hush my baby, Dum, Dum, Dum, Up,up in the Sky Go to aleep. Here my little drum. The little birds fly. 勿論教師は最初、曲を心に留めながら、ピアノ或は聲で聞かせて子供達を助けなければならない。之等の Mr. Cady の爲た事を

よく知つてゐる人々は、此の小さい子供達と一處にする創造的な仕事が、ある價質ある結果に到達するといふ事を知てゐる。2團3團に於ては、吾々は一層、歌を教へるに先て先づ一人〳〵で歌うといふ事が大切である、全團で歌をうたふ事は、ごく簡單なもの丶外は少なくしなければならない。旋律をうたふ事の出來る小さい團は屢々他の子供達に歌て聞かせるがよい。教師は Good morning, Dear Childer (Fill song book の中にある) の如きむづかしい句をぬき出して模倣に依て繰り返させねばならぬ。勿論歌は常に場合に應じて全體を子供達にうたつてきかすべきである。練習が最初に來るといふ事は決してない。

## 効　果

態度。興味。趣味。

自分で或は他と共に、音樂を聞き又歌ふといふ事の興味。入營前に一般の子供が聞かされたものよりも高級な音樂の新しい興味。

習慣と技巧。

明瞭な、輕い調子を出す事。文句を繋げてうたふ事。正しい云ひ表し方から生じた自由な呼吸の續ぎ方。子供が自分であまり低くはじめた調子の度を變へる能力。

知識。

特質に應じて新しいリズムの反應する能力。曲の精神の特色を區別する能力。

二三の簡單な歌を一人でうたひ得る能力。(終)

知つてゐるだけ言ひ表せないのは言葉の缺陷である。言葉の不足を表情に補ひきれぬのは、又表情表現を感受し得ないのは感情教育の疎雜な爲である。日本人ほど言葉以外に表情でもの言ふことを憶怯がる人種はない。子供の時分にはそうでもないけれど。(エム生)